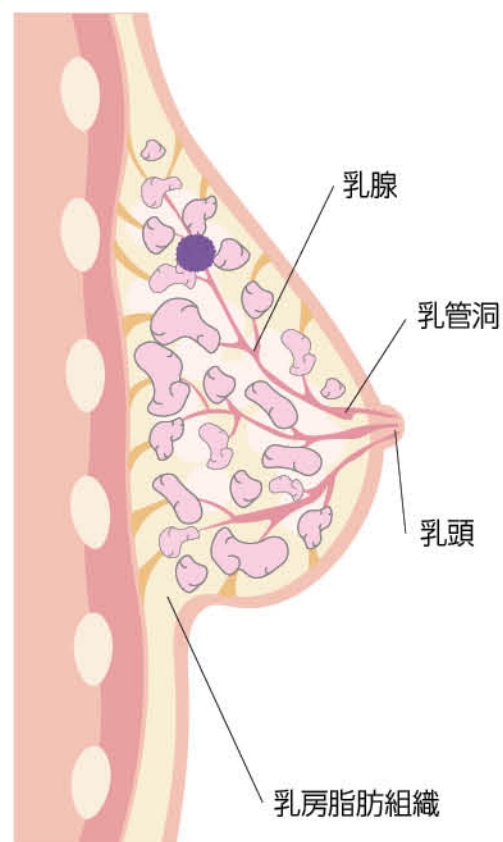


乳がん

日本人女性で9人に1人。とても身近な病気



**女性に最も多い
早期なら90%以上が治る**

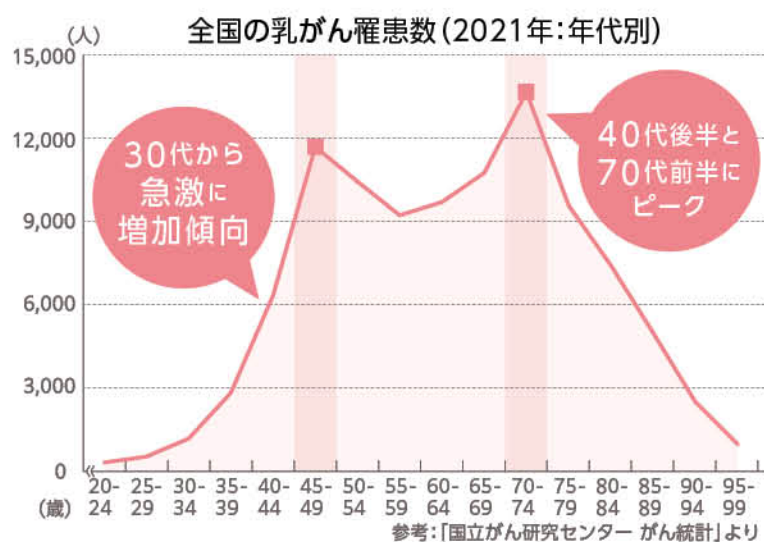
乳がんは、乳腺の組織にできるがんで、多くの場合、母乳を乳頭まで運ぶ乳管から発生します。リスク要因は、飲酒や喫煙、閉経後の肥満、家族歴(近い血縁内に乳がんや卵巣がんなどを発症した人がいる場合)などがあげられます。

乳がんは、日本人女性がかかるがんの中でも特に多く、早期発見すれば治る可能性が高い病気です。また、自分で気付くことができる可能性のある数少ないがんでもあります。初期にはほとんど自覚症状がなく、しこりや違和感に気付いたときには進行しているケースがあります。

未来の私を守る10分

乳がん検診は、マンモグラフィ(乳房X線撮影)で乳腺や乳房内の状態を調べる検査です。乳房を透明な板で挟んで圧迫し、できるだけ薄く広げた状態で撮影すること、わずかな石灰化やしこりなど、触っても分からないごく初期の異常を画像に映し出すことができます。

スモもあります。だからこそ、定期的な乳がん検診がとても大切です。



特に乳がんの早期発見に有効とされ、視触診だけでは見つからない小さな病変も確認できます。撮影の際に圧迫するため「痛い」と感じる人もいますが、圧迫を短時間で行うことで画像が鮮明になり、診断の精度が高まります。検査は10分程度と短時間で終わります。

マンモグラフィは世界的にも乳がん検診の標準的な方法として広く行われています。

体験談「あのとき受けてよかった」.....



50代 女性
(町内在住)

20代前半に良性のしこりが見つかって以来、乳がん検診は欠かさず受け続けてきました。49歳のとき、通知で「要精密検査」と知らされた瞬間、「やっぱりな」と思ったのを覚えています。診断は乳がん。医師から治療方針をいくつか提示され、自分で選ばなくてはならなかったことが一番の心理的負担でした。

最終的に手術で全摘出し、1週間ほどで退院。薬による治療は続いています。今は仕事にも復帰し、家族と元気に過ごしています。

あのとき検診を受けていなければ、今の私はいなかったかもしれません。検診は自分のためだけでなく、家族の笑顔を守ることに繋がると感じています。

守ろう、自分と家族の未来

婦人科検診は、「乳がん検診」と「子宮頸がん検診」の総称で、あなたの健康と未来を守る大切な機会です。

乳がんや子宮頸がんは、早期に見つかれば治療の選択が増え、完治する可能性が高い病気です。しかし、初期にはほとんど症状がなく、自覚したときには進行しているケースも少なくありません。だからこそ、定期的な検診を受けることが、自分を守る最も確かな手段となります。

近年は装置や技術の進歩により、これまで見つけにくかったごく初期の病変も発見できるよう

なりました。検査は短時間で終わり、痛みを和らげる工夫も取り入れられています。「検診はつらいもの」というイメージを持っている人にも、安心して受けていただける環境が整っています。

町の婦人科検診は各500円で受診できる上、一定の年齢の人に無料クーポン券を配布しています。費用の心配をせず、誰もが気軽に健康を確認できる仕組みです。がんを早く発見できるかどうかは、その後の治療や生活にも大きな影響を与えます。



役場健康づくり課
健康推進係
保健師 西岡妃琴



少しの時間で きちんと対策

婦人科検診で安心を

未来の私に贈る時間

婦人科検診は、女性の健康を守るために行う定期的な検診で、主に乳房・子宮・卵巣など女性特有の臓器に関する病気の早期発見が目的です。

「がんは怖い」

でも、乳がんも子宮頸がんも早期発見ができれば約90%が治せる病気。検査の結果、「要精密検査」と言われた人でも実際にがんが発見されるのは、約1~2%です。**知らないから怖いのです。**

婦人科検診を知る勇気を持ち、実際に行動に移すことが、きっとあなたの安心につながるはず。

検診を受診するためにあなたの時間を少しだけ使ってみませんか。

☎ 役場健康づくり課(保健センター) ☎ 88-5533



対象者には通知済み 自分の体を知る時間



婦人科検診の対象者には、7月中旬に通知を送りました。完全予約制でLINEを使って“いつでも、どこからでも”予約をすることができて便利です。

Q 対象者は??

	子宮頸がん検診	乳がん検診
対象者	20歳以上の奇数年齢の人 ※前年度(令和6年度)未受診の人は、偶数年齢でも受診可。 ※4月1日生まれの人はこの限りでない場合があります。	40歳以上の奇数年齢の人 ※前年度(令和6年度)未受診の人は、偶数年齢でも受診可。 ※4月1日生まれの人はこの限りでない場合があります。
無料クーポン対象者	21歳、26歳、31歳、36歳、41歳	41歳、46歳、51歳、56歳、61歳

Q 受けたいけれど、通知が来ていない

婦人科検診の受診対象の人には、町から毎年「受診票」を自動的に郵送しています。令和7年度は7月中旬に送付済みです。

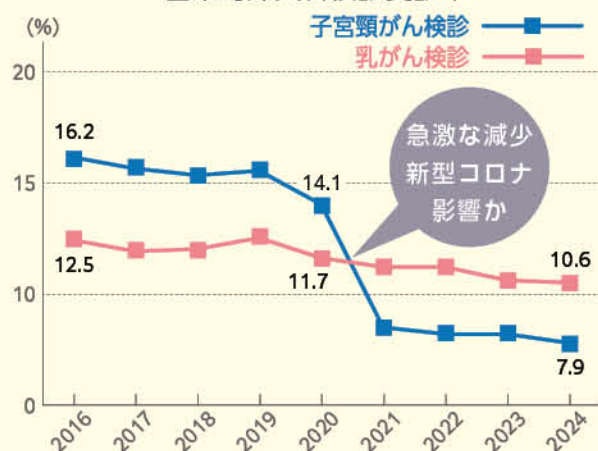
ただし、過去2回の受診機会を逃した人や邑楽町へ転入した人は、自動送付の対象外となります。

問 役場健康づくり課
(保健センター)
☎88-5533

そのため、検診を希望される場合は、ご自身で町へ申し込みいただく必要があります。保健センターへご連絡ください。



邑楽町婦人科検診受診率



急激な減少
新型コロナ
影響か

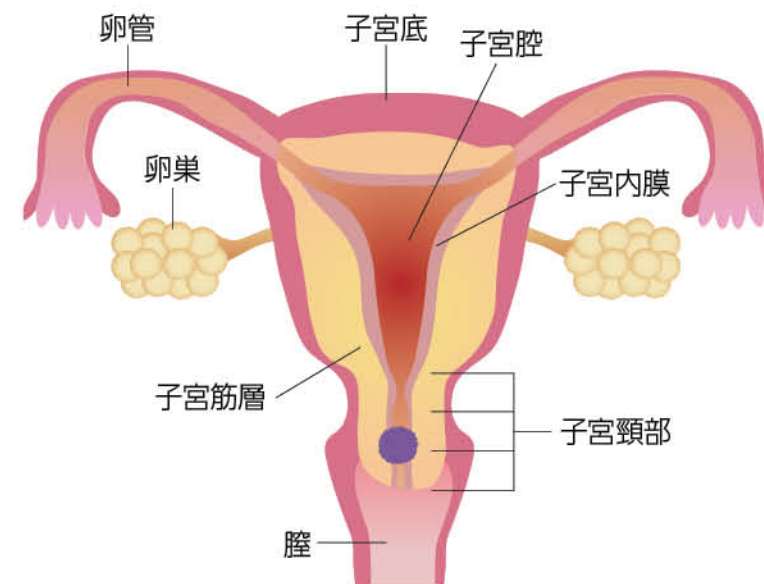
あなたの未来を守るのは
あなたの自身の行動

検診にあてる時間はあなたの未来のための時間
あなたが元気でいることは、家族や友人にとっても何よりの安心です。ほんの短い時間を検診にあてることで、これからの長い人生を守る大きな一歩になります。今年はずいぶん、婦人科検診を受けてみませんか。



子宮頸がん

ワクチンと検診で防げる、数少ないがん



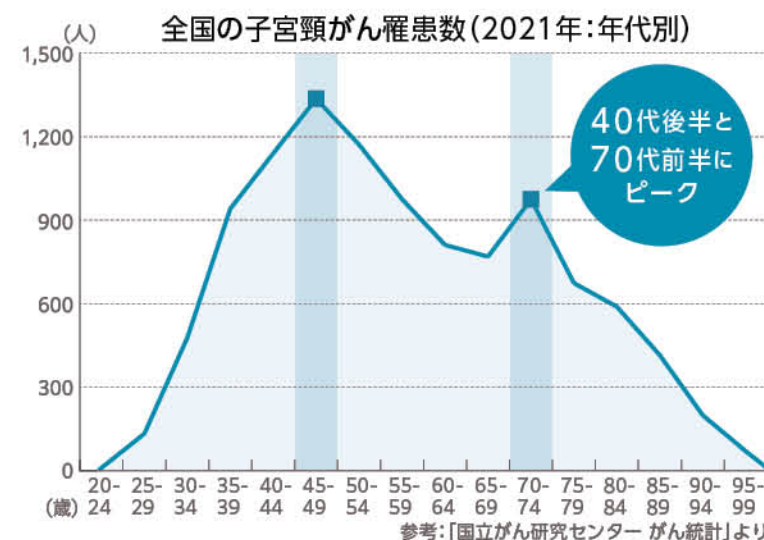
20〜30代で最も多い
若さで油断しないで

子宮頸がんは、子宮の入り口付近(子宮頸部)にできるがん。多くの場合、性交渉によってヒトパピローマウイルス(以下、HPV)に感染することが原因で起こります。

HPVは多くの女性が一生に1回(子宮頸部)にできるがん。

一度は感染するといわれています。感染しても免疫により自然に排除されますが、一部の人は感染が進み、がんになります。

日本では1年間に約1万人が新たに子宮頸がんを診断され、比較的若い世代に多く見られる病気です。乳がん同様、早期に見つければ高い確率で治すことができます。しかし、自覚症状が出にくいいため、気付いたときには進行しているケースも少なくありません。



がんを予防できる唯一のワクチン接種
HPVワクチン予防接種のススメ

HPVワクチンはHPVの感染を防ぎ、将来の子宮頸がんを予防できる唯一のワクチンです。以下の対象者は、公費(自己負担なし)で接種することができます。

対象になる人 接種日時時点で町在住であり、次に該当する女性

- ① 定期接種・・・中学1年生～高校1年生相当(平成21年4月2日～平成25年4月1日生まれ)
- ② キャッチアップ接種・・・平成9年4月2日～平成21年4月1日生まれで、令和4年4月1日～令和7年3月31日までに子宮頸がんワクチンを1または2回接種している

公費(自己負担なし)で接種を受けるには……

町発行の
予診票が必要

接種期限が
あります

ワクチンがある
病院を予約

HPVワクチン予防接種の詳しいことは、町ホームページをご覧ください➡➡➡

